

救済1週間後に豪遊、AIGに批判噴出

産経新聞HPより 2008.10.8 09:39

このニュースのトピックス: 金融危機



米政府による救済が決まったAIGのビル(AP)

【ロサンゼルス＝松尾理也】米連邦準備制度理事会(FRB)から融資枠の提供を受け、事実上の政府管理下に置かれた米保険最大手アメリカン・インターナショナル・グループ(AIG)の傘下関連会社が、公的救済が決まった1週間後に、カリフォルニア州南部オレンジ郡の高級リゾート地に関係者を集め、総額44万ドル(約4500万円)の「会合」を繰り広げ

ていたことが、7日開かれた米下院の公聴会で明らかにされた。

AIG側は「営業成績上位の代理店をねぎらう目的で、1年前から予定されていた」と弁明したが、「米国民が救済資金を出すのを横目に、マッサージを受け、マニキュアを塗っていたのか」(イライジャ・カニングス下院議員)などと批判が噴出している。

舞台となったのは、ロサンゼルスーサンディエゴ間の海岸沿いに位置する高級リゾート「セントレジス・リゾート」。議会の求めに応じて、9月22日から30日まで催されたAIG関連会社の会合に対する請求書が提出され、豪遊ぶりが明らかになった。AIGの救済が決まったのは9月16日だった。

請求のうち、宿泊費は約20万ドルで、1泊1600ドルのスイートルームも含まれていた。スパ(温泉浴)の費用も23000ドルが計上されていた。参加人数は明らかにされていないものの、予約されていた部屋は約60室だった。

AIG側は当初、正当性を主張していたものの、公的資金投入をめぐる地元有権者から激しい突き上げにさらされている議員たちからは「普通の米国人が職や家を失っているというのに、重役たちは全米有数のリゾートで供給を受けていた」と批判が噴出。この日、公聴会で証言に立ったウィルムスタッド前CEO(経営最高責任者)は「もし開催を知っていれば中止させた」と弁明に追い込まれた。